

平成23年度前期 授業改善アンケート 質問項目

	no.	設 問	① ↔ ⑤
学 生	1	シラバスで授業内容を確認しましたか	確認しなかった ～ 十分確認した
	2	教室では授業に積極的に取り組みましたか	取り組まなかった ～ 取り組んだ
	3	あなたの出席状況を評価してください	良くない ～ 良好
	4	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか	しなかった ～ 十分した
授 業 内 容 教 え 方 等	5	授業はシラバスに沿って行われましたか	シラバスと異なる ～ シラバスに沿っていた
	6	授業内容を理解できましたか	理解できなかった ～ 十分理解できた
	7	説明が明快でしたか	分かりにくい ～ 明快
	8	話は良く聞き取れましたか	聞き取りにくい ～ 聞き取れた
	9	板書、OHP・PowerPoint等は授業を理解する上で効果的でしたか	改善して欲しい ～ 効果的
	10	配布資料、教材等が効果的でしたか	改善して欲しい ～ 効果的
環 境 ・ 設 備 等	11	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか	良好でない ～ 良好
	12	参考書等が図書館に揃っていますか	不足 ～ 揃っている

1. 概評

今年度から10人以上受講の科目は演習も含めすべてで実施したので、昨年度後期より+27科目の結果である。12の質問項目のうち、no.2のみ全学平均と同数値で、それ以外はすべて上回っており、概ね良好と言える。特に顕著な向上が見られたのはno.4(自主的な学習 前年同期+0.7)、およびno.9(板書等 +0.3)である。また、no.3(出席)は数値の上では+0.1であるが、得点分布の4≦が全科目の99%を占めている。no.6(理解 +0.2)、no.12(参考書 +0.2)も高い平均値をさらに伸ばした結果となっている。ただし、これらは東日本大震災対応の13週の授業(2週分は課題もしくは補講)とそれに伴う課題に負うところが大きく、引き続き経過を見守る必要がある。また、向上の一方で一部の科目に低い数値が認められた。早急にその原因を特定し、対応策を講じる必要がある。

(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	4.1	0	0	0	5	28	89	[学生] すべての項目で前年度同期の数値を上回っている。no.1(シラバスの確認)は全学平均+0.3、前年度前期+0.1である。実習科目、下級学年対象の科目でやや低い数値がみられるものの、事前に授業内容を確認した上で授業に臨む姿勢が定着してきているようである。 概評においても述べたが、震災対応のため、多くの科目で課題を出したことが功を奏し、no.4(自主的な学習)の数値が著しく向上した。持続させるべく、今後も工夫を重ねたい。さらには課題とせずとも自主的な学習をすることを奨励し、no.2(積極的な授業参加)の向上にもつなげたい。
2	4.1	0	0	0	5	34	83	
3	4.5	0	0	0	0	1	121	
4	4.2	0	0	3	4	27	88	
5	4.1	0	0	0	4	29	89	[授業[内容]] いずれの項目も前年度同期より向上している。震災対応の授業短縮にもかかわらず、シラバス通りの授業が平年並みに維持された点、学科教員の工夫によるものと思われる。no.6(理解)で低い数値の科目が見られた。早急にその原因を特定し、対応策を講じる必要がある。 なお、no.6(理解)についてはno.2(積極的な授業参加)との相関関係が強く認められる。
6	4.1	0	1	0	13	29	79	
7	4.2	1	0	1	7	28	85	[授業[教え方等]] すべての項目で前年度同期より向上している。シラバス通りの授業を維持したひずみが表れたのか、近年見られなかった低い数値が数科目に散見された。早急にその原因を特定し、対応策を講じる必要がある。 no.7(説明の明快さ)・no.8(話の聞き取りやすさ)と、no.9(板書)・no.10(配付資料・教材)に相互の連動が認められる。学生にとって、高校で扱わないような内容の分野・科目に厳しい評価が見られることから、これらの科目には聴くだけでなく、視覚的な授業展開や要点のまとめなどが求められていると考えられる。
8	4.3	0	1	0	5	23	93	
9	4.1	0	2	0	12	32	72	
10	4.2	0	1	0	3	24	93	
11	4.3	0	0	0	1	18	103	[環境・設備等] いずれも前年度同期より向上している。no.11(学習環境)は節電の影響もあり、多人数の科目に比較的多く不満の数値が見られた。no.12(参考図書)は多くの科目で課題を出した関係で、学生への周知が徹底されたものと思われる。全学平均+0.3である。ただし、非常勤講師の科目にやや低い数値が見られるので、対処を依頼したい。
12	4.0	0	0	0	6	60	56	

3. 今後の方針

今年度前期は、震災対応という特別な状況により、プラスに働いた項目、マイナスに働いた項目があったと考えられる。また、演習科目を多く調査対象に含んだため、全体的な平均を引き上げている様子もうかがえる。全学平均を上回り、前年度同期を上回ったことを安易に受けとめず、今後も引き続き研鑽に努め、注意深く結果を見守っていく必要がある。

1. 概評

学科平均が全体平均より高いものが12項目中2項目(No.4,12)、低い数値が1項目(No.2)、そして同じ数値のものが残り9項目(No.1,3,5,6,7,8,9,10,11)であった。全体的に見ると今学期の評価は大変良好と言えるかと思われるが、引き続き改善に努める必要のある項目もあるので、今後も改善に努めたいと考えている。

【学生】4項目中1項目のみが、全体平均より0.1ポイント下回っているという大変良い結果となった。昨年度と比べても大きく改善された様子が見られる。学生に対しての授業内外での繰り返しの指導が功を奏してきたのではないかと考えている。

【授業【内容】】2項目とも、全体平均と同じポイントとなっている。学生のニーズや期待値に合っているものと考えている。

【授業【教え方】】4項目とも、全体平均と同じポイントとなっている。効果的な授業運営をめざしたFD活動の成果と考えている。

【環境・整備等】2項目のうち、1項目は全体平均を0.1ポイント下回り、もう1項目は全体平均と同じ数値であった。図書館(No.12)の項目が比較的低い結果が続いているので、引き続き先生方からの推薦を呼び掛けていきたいと考えている。(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.8	0	0	3	26	98	46	[学生] ・No.1は、全体平均と同じ数値となっている。前年度と比較すると数値が0.2ポイント上昇しているが、まだ改善の余地があるかと思われるので、シラバス確認の指導を進めていきたい。 ・No.2は、全体平均よりも0.1ポイント低くなっているが、前年度と比較すると0.1ポイント上昇している。授業内外での学生の積極的な取り組みを促す授業展開を更に検討していきたい。 ・No.3は、全体平均と同じ数値であるが、昨年度と比較すると0.2ポイント上昇と改善が見られる。特に97%以上の授業で最も良い評価を得ていることから、満足できる結果と言える。 ・No.4は、全体平均より0.1ポイント上回っており、昨年度との比較では0.6ポイント評価が上昇している。この設問は、文言が変わった設問ではあるが、学生が授業外での学習に積極的に取り組んだ成果とも考えられるので、今後もこの状況を更に続けて行けるように取り組みたい。
2	4.0	0	0	0	9	53	111	
3	4.4	0	0	0	0	5	168	
4	4.2	0	0	0	1	30	142	
5	4.0	0	0	0	7	45	121	[授業【内容】] ・No.5とNo.6は、全体平均と同じ数値であるが、前年度と比較すると0.1ポイント上昇している。概ね良好の結果と言える。 ・No.6(授業内容の理解)に関する回答結果が分散している傾向があるので、この点は更に改善に取り組みたい。
6	4.0	0	0	1	20	40	112	
7	4.1	0	0	1	19	45	108	[授業【教え方等】] ・No.7は、全体平均と同じ数値であるが、前年度と比較すると1ポイント上昇している。 ・No.8は、全体平均と同じ数値であると共に、昨年度とも同じ数値である。 ・No.9は、全体平均と同じ数値であるが、前年度と比較すると1ポイント上昇している。 ・No.10は、全体平均と同じ数値であると共に、昨年度とも同じ数値である。 ・上記の結果を考慮すると、「教え方」の項目に関しては、概ね良い結果になっている。但し、これら4つの設問に対する回答結果を詳しく見ると、回答が分散されている様子が見られるので、より高い回答を得られるように、大学並びに学科のFD活動等を通して引き続き取り組みたい。
8	4.1	0	0	2	16	40	115	
9	4.0	0	0	1	21	60	91	
10	4.0	0	0	0	21	54	98	
11	4.1	0	0	1	5	62	105	[環境・設備等] ・No.11は、全体平均と同じ数値であると共に、昨年度とも同じ数値となっている。 ・No.12は、全体平均より0.1ポイント上回っており、昨年度の数値と比較しても0.1ポイント上昇している。 ・上記の結果を考慮すると、概ね良好な評価を得ているかとは思われるが、No.12の評価(図書館の利用)が更に上昇する様に、先生方からの協力を得つつ継続的に取り組みたい。
12	3.8	0	0	1	22	90	60	

3. 今後の方針

・学科平均を前年度の結果と比較すると、ポイントが上昇した項目が12項目中9項目あり、残り3項目は同じ数値であった。ポイントが上昇した項目の中には、非常に大きく上昇したものもあり、概ね良い傾向であると言える。その点を考慮すると、評価が上昇しなかった3つの項目については、今後更なる改善を図っていかねばならないと考えている。

・【授業[教え方]】の項目の中の、No.8(「話が良く聞き取れましたか」)と No.10(「配布資料・教材等」)に関しては、授業の質や内容の根本的な部分でもあるので、大学のFD活動に加え、学科でも更なる改善に積極的に取り組んで行きたいと考えている。

・【環境・設備等】の項目の中の、No.12(「図書館の利用」)に関しては、前頁でも述べているが、先生方からの協力を得て、授業関連の参考図書を質・量ともに更に充実させ、学生の図書館利用を促進しているように進めていきたいと考えている。

1. 概評

前期開設科目のうち、112 の授業でアンケートを実施した。学科平均と全体平均を比較すると、全体平均を上回る項目が 3 つ（No.1、No.3、No.10）、全体平均と同じである項目が 7 つ（No.5、No.6～No.9、No.11、No.12）、やや下回る項目が 2 つ（No.2、No.4）であった。この結果、学生の出席状況は良く、授業も問題なくすすめられており、おおむね良好である。ただし、No.2 と No.4 にみられるように、学生の授業での積極性と授業外での学習の弱さがみえ、改善すべき点である。また、経年変化でアンケートをみた場合、ある特定の授業で評価が低いという状況もあり、この点での改善すべき点がある。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.9	0	0	1	8	60	43	〔学生〕 本学科の学生は、No.1 にみられるように、シラバスでよく確認し、また No.3 にみられるように、出席状況は良く、それぞれ全体平均を上回っている。まじめな学生が多いという印象をうける。ただし、No.2 と No.4 にみられるように、授業への積極性と授業外での学習について、全体平均を 0.1 ポイント下回った。しかし、前年度後期と比較すると、No.2 で 0.1 ポイント、No.4 で 0.5 ポイント上昇した。 これは、学科で取り組んでいる改善の兆しと思われる。1年必修の授業で、全員に課題を出し、自主的な研究をするように指導していることを継続するとともに、他学年についても課題を出すなど、教員に努力してもらい改善に努めたい。
2	4.0	0	0	0	5	35	72	
3	4.5	0	0	0	0	1	111	
4	4.0	0	0	1	9	32	70	
5	4.0	0	0	0	5	29	78	〔授業〔内容〕〕 全体平均と同じであり、前年度後期と比べると、それぞれ 0.1 ポイントあがっている。おおむねシラバスに沿った授業であり、内容的にも問題がない。 ただし、No.6 に関して、特定の授業で低い評価があった。担当教員と相談しながら改善に努めたい。
6	4.0	0	0	1	9	29	73	
7	4.1	0	0	1	8	24	79	〔授業〔教え方等〕〕 全体平均と同じが No.7、No.8、No.9 であり、上回っているのが No.10 である。おおむね問題はない。また、前年度後期と同じポイントであった。 ただし、No.7、No.9 で評価が低かった授業があり、担当教員と相談しながら改善に努めたい。
8	4.1	0	0	0	6	19	87	
9	4.0	0	0	1	8	49	53	
10	4.1	0	0	0	4	41	67	
11	4.1	0	0	1	4	20	87	〔環境・設備等〕 全体平均とおなじであり、また前年度後期と同じポイントであった。また、No.11 で低い数値がでている授業は、学生数に比べ教室の狭さが問題であった。 No.12 が例年低い数値であるので、学生自ら必要文献を図書館に申し込むように指導していきたい。
12	3.7	0	0	2	17	77	16	

3. 今後の方針

A 本学科学生は授業をまじめに取り組むが、積極性と授業外の学習面で弱さがみられる。この点は、毎回指摘されることである。しかし、前年度後期と比較すると、No.1～No.4 の設問は、No.1～No.3 については、0.1ポイント上昇し、No.4については、0.5ポイント上昇した。少しずつではあるが、改善の兆しがみえる。

今後の短期的な方針として、

- ①各授業担当者に、授業中に課題をだすなどの工夫をお願いする。
- ②各授業担当者に、授業中に質疑応答の時間を設けるなどの工夫をお願いする。

長期的な方針として、

- ①1年生の必修授業(『歴文基礎』)で取り組む、それぞれのテーマについて自分で野外調査し、その調べたことを整理し、授業で報告するというスタイルを徹底し、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養っていく。
- ②2年生以上の学生に対しては、ゼミの研修旅行、海外調査、昭和女子大学文化史学会への参加、学生編集の『れきマガ』を通じた活動などから、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養いたい。

B 授業内容・教え方に関しては、全体平均とおなじか、上回るポイントがあり、基本的には問題ない。ただし、特定の授業が低く評価されていることも事実であり、公開授業などを実施し、授業改善をはかりたい。

1. 概評

シラバスの確認については、選択科目の場合 UPSHOWA の導入によって、大きく改善がみられる。必修科目については、第 1 回目の授業で授業の目的などについて、担当教員から再度説明が必要であると思われる。授業外での学習については、科目によってばらつきがみられるが、必修科目は概ね学生が自主的な学習を行っているようである。選択科目についても、学生の積極的な授業への取り組みを図っていききたい。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.8	0	0	2	29	73	61	[学生] 3 項目が前学期に比べて、0.2～0.3 ポイント上昇した。残る 1 項目についても、前学期と同じポイントを維持することができた。 出欠状況の評価については、1 年生の必修クラスで教員からもいい手ごたえがあったようである。これが数値に反映されたといえる。 シラバスの確認については、語学の必修科目については概ね 0.2 ほど低い。シラバスの内容を確認させて、事前の意欲向上を促したい。
2	4.0	0	0	1	13	55	96	
3	4.4	0	0	1	0	7	157	
4	4.0	0	0	7	7	50	101	
5	4.0	0	0	2	6	58	99	[授業[内容]] 2 項目とも前年度と同じポイントを維持した。これは、受講生のシラバス確認が改善され、教員もシラバスに沿って授業をしていることが定着したと考えられる。
6	4.0	0	0	2	25	37	101	
7	4.1	0	1	0	23	37	104	[授業[教え方等]] 4 項目とも全体平均よりも高いが、学科平均は昨年度よりも 0.1 ポイント下がってしまった。 板書や PowerPoint の使用など授業に工夫が必要であることから、担当教員により一層の努力を促したい。また、説明の明快さと聞き取りやすさについては、公開授業などを通して相互理解を深めていきたい。 同一の教員が複数の授業を持っている場合、それぞれにばらつきがある。原因を考えていきたい。
8	4.2	0	1	1	12	35	116	
9	4.0	0	1	1	22	52	89	
10	4.1	0	1	0	17	35	112	
11	4.2	0	0	2	4	42	117	[環境・設備等] 2 項目とも全体平均を上回っている。No.12 は、昨年の学科平均と同じポイントを維持しているが、No.11 は 0.1 ポイント下がっている。 学習環境 (No.11) については一部少人数の授業でもポイントが低い場合がある。原因を確認する必要がある。
12	3.8	0	0	1	28	85	51	

3. 今後の方針

教え方については、個々の教員でばらつきがある。今後も授業技術の向上を目指して、教員間での意見交換を進めていく。

図書館の参考図書については、副教材の充実に努めたい。

国際学科は来年度が完成年度となる。学科の新カリキュラムを構想する上で、授業改善アンケートの結果を生かしていきたい。

学生の出欠状況については、クラスアドバイザーやゼミ教員が中心となって、指導を徹底したい。

1. 概評

大学全体平均と比較するとほぼ同じ値ではあるが、学科としては、12項目中9項目の数値が前学期を上回った。特に No.4 の授業外の学習に関しては大きく上昇しており、課題を含む授業外への学習への学生の取り組みを高めることができていた。今後も引き続き、学生への働きかけを意識しつつ、授業の改善に取り組んでいきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.8	0	0	0	10	25	21	[学生] 前学期まで低かった No.4 の授業外での自主的な学習の値が高くなったため、4項目すべてにおいて大学全体の値とほぼ同様の値となった。No.1 のシラバスの確認に関しては必修の授業科目を中心に、履修内容の確認をうながしていきたい。
2	3.9	0	0	0	4	27	25	
3	4.5	0	0	0	0	0	56	
4	4.0	0	0	0	11	10	35	
5	3.9	0	0	0	1	31	24	[授業[内容]] 前学期より 0.1 ポイント高くなったが、大学全体よりはわずかにあるが低い。シラバスに沿った授業運営を心掛けていきたい。
6	3.8	0	0	1	7	20	28	
7	3.9	0	0	1	7	15	33	[授業[教え方等]] 前回および大学全体とほぼ同じ値であり、概ね、良好であると言える。が、今後も授業方法の改善への努力を続けていきたい。
8	4.0	0	0	1	6	12	37	
9	3.9	0	0	1	6	22	27	
10	4.0	0	0	0	4	20	32	
11	3.9	0	0	2	9	11	34	[環境・設備等] 部屋の広さ等の学習環境に関しては、特に選択科目において受講者数と教室の広さとのバランスを取ることが、むずかしくなっている。図書館の蔵書への評価は必ずしも高くないが、教員が参考書籍の購入を積極的に図ると共に、今後とも学生に広報することで、図書館の活用をはかっていきたい。
12	3.6	0	0	0	15	30	11	

3. 今後の方針

- 授業内容や教え方等に関しては、授業公開などを通して教員間の情報交換を密にし、一層の授業の質の向上を目指していきたい。
- 図書館蔵書に関しては、教員が担当授業科目における参考書籍を積極的に購入し、併せて学生への指導・広報を行うことで、学生が図書館をより活用できるよう図っていきたい。

1. 概評

前年度比・今年度前期比で分析すると、様々な工夫が定着しつつあり、その結果も出始めているように見受けられた。たとえば、シラパスの内容確認について、UPSHOWA の利用が進展したと考えられる。学生の出席状況は比較的良好であり、その取り組みの姿も総じて積極的と評しうる。授業参加の主体性や学習態度の自主性は実習や演習などの実技系科目において特に多く見受けられ、そういった科目と講義科目の両方を視野に入れた体系的な学習がひいて全体の意欲向上につながりやすいと考えられた。また、講義科目の中では、少人数制で運営される科目のほうが、多人数の受講科目よりも積極性を抱きやすいことがわかる。教員も目の届く環境作りに配慮し続けることで、学習効果の向上が企図できるといえるだろう。さらに、科目担当者同士の情報交換や常勤教員・非常勤教員の連携を密にすることで、ひいて学生の学習が定着し、高い充実度が維持できるものと期待できる。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.6	0	0	1	47	78	9	[学生] シラパスの事前確認、授業参加の積極性、出席状況、自主的な学習への取り組みは全体的に進展傾向にあると見受けられる。昨年度の前期、昨年度の後期と比べて、科目の隔たりにくポイントアップの趨勢といえるだろう。特に今年度のシラパス事前確認は一歩進んで定着し、安定してきた感がある。震災等の影響も考慮すると、落ち着いて学習に取り組もうとする様子が学生側にも多々見られたことは、学びの意識向上ともいえる状況だと理解できる。教養科目や非常勤講師の担当科目については、日常的に学生と関わらない分、学科全体でフォローして科目の位置づけ、そのための学習方法を伝えあうとともに、科目間の教育連鎖を効果的に狙う講義の組み立てがより一層必要と考えられる。資格関連科目のなかでは、実習科目や演習科目よりも講義科目のほうがポイントが低くなりがちなので、講義科目の授業について運営方針や展開を理解しやすくする工夫の余地がある。
2	3.9	0	0	0	4	89	42	
3	4.4	0	0	0	0	3	132	
4	4.0	0	0	1	24	29	81	
5	3.8	0	0	0	8	90	37	[授業[内容]] 授業とシラパスの一致、その授業内容の理解度は昨年度前期、昨年度後期の双方と比較して評価が上がった。前者はシラパス確認との連動向上、後者は科目間差異の修正が奏功した結果と受け止められる。法改正でカリキュラムの移行があったものの、このような評価が得られ、教員側の努力が実った感もある。専門性の高度な科目はさらにこういった努力を継続する必要がある。
6	3.9	0	0	1	16	73	45	
7	4.0	0	0	1	19	49	66	[授業[教え方等]] 授業の説明方法、聞き取りやすさ、板書の状況について、全体で評価が向上しており、配布資料の充実度についても、昨年度前期より上昇、昨年度後期と同様な評価結果であった。複数資格を取得希望の学生が混在するなかで、科目の専門性と受講生の主たる関心領域とのミスマッチも心配されたが、この結果からはむしろそういった心配は少なく、重層的な学習の積み上げで幅広く力量が形成されると期待しうるところである。とはいえ、こういった状況は引き続き検証しながら、法改正の影響で生まれる混乱を最小限に食い止めて成果を倍数的に上げていきたいところではある。演習や実習といった実技系の科目と講義科目との違い、各専門性の関係、領域の変動などを受講学生のニーズに照らす形でくみ取る授業展開の工夫は、適宜性も要求されるので、日常的コミュニケーションを重視するとともに、授業時間外の学習を促す課題設定などを方略化していくことが必要であろう。
8	4.1	0	0	0	12	45	78	
9	3.8	0	0	2	32	60	40	
10	3.9	0	0	1	11	60	63	
11	4.0	0	0	0	14	65	56	[環境・設備等] 学習環境・参考図書については昨年度前期よりもポイントが上昇しており、近年の同様な傾向のなかでとらえられる。しかし、図書の充実はそもそも高い評価が得られずにきた質問項目であり、学科の教育内容が時代の中で設定されていることからすれば、情報不足は悩ましいところである。授業時間内で文献紹介の時期を工夫し早めに図書探しができるようにするのも一案であろう。
12	3.6	0	0	0	34	87	14	

3. 今後の方針

- シラバスの確認については近年上昇傾向にあり、指導の綿密さが確認できる。あわせて UPSHOWA 等を利用する姿勢の定着が実現しつつあるので、今後はさらにこの状況を維持して発展させることが望ましい。シラバスで授業の実質化が進めば、授業内容を把握する学生本人の意欲向上につながり、同時に、教員側の適切な教育保障にも結び付く。今後もこういったシステムの充実に働きかけ、可視化による相互理解を実現させていきたい。
- 本学科は資格関連科目も多く、そのうえで3コース制における各必修科目の設定も用意されているため、学生が機械的に履修をする可能性もなくはない。そこで、それぞれの科目を学ぶそもそもの意義について考える機会を用意することが肝要である。この点、履修登録時の教務オリエンテーション等でシステムティックな説明を心がけるとともに、各科目担当者が認識を共有して意欲向上につながる体系的な学習への誘いを進めることも有効と思料する。科目の位置づけに基づく導入の工夫を心がけ、それぞれの授業展開を方略化する必要性が依然高い。
- 法改正があり資格関連科目は新しいカリキュラム体系への移行を求められている。学年をまたがって受講生が存在する場合などには学生側に混乱が心配されるところである。現況はつつがなく進行しているとはいえ、この点の配慮を満遍なく行うことの必要性も依然高く、授業内容のわかりやすい説明・理解度の確認は日々丁寧に進めて確実なものとするのが求められる。
- 視聴覚機器の設置が広まり、充実してきた結果、学生の評価も上昇しているが、そういった機器の利用がより高い教育効果を期待できる科目については、事前に把握して適切な教室配置を心がける。

1. 概評

今年度前期もこれまでのように、学生自身への評価は全体的に改善されているようだ。授業内容についても、全体的に改善されていることがわかる。これは近年シラバスの作成がより厳しく求められるようになったこと及び教員全体の努力によるものだと思う。学生自身への評価が改善されていることについては、引き続き、学生たちを励まし、教員への評価はさらに改善できるよう心がけていきたい。教え方の改善には今後の課題としてさらに取り組む必要があると考えている。学習環境の改善には、少人数クラスの維持が重要であると考えているが、最近はクラスの人数が増える傾向がある。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.8	0	0	1	24	71	40	[学生] 1(シラバス内容の事前確認)は、全学科の平均と同じだが、前年度同期より、0.3 ポイント高い。これは大学全体において学生のシラバス確認が改善されていることとも関係があり、教員全体が受講生にシラバス確認を強く求めるようになったことと関係があると思う。 2(授業への取り組み)は、全学科の平均と同じだが、前年度同期より改善され、0.1 ポイント高い。 3(出席状況の自己評価)は全学科の平均より 0.1 ポイント低いが、前年度同期より改善され、0.1 ポイント高い。 4(授業外での学習)は、全学科の平均と同じだが、前年度同期より、0.5 ポイント高い。 学生の自己評価は全体的によく、とくに気になるようなことはない。
2	4.0	0	0	0	10	49	77	
3	4.4	0	0	0	0	5	131	
4	4.0	0	0	1	12	35	88	
5	4.0	0	0	0	2	55	79	[授業[内容]] 5(授業はシラバスに沿っているか)は全年度同期より改善され、0.2 ポイント高い。全学科平均と同じ。これは受講生のシラバス確認が改善されていることとも関係があるではないかと思う。 6(授業内容の理解)学科の前年度同期及び、大学全体の同年前期と同じ値である。
6	3.9	0	0	3	12	43	78	
7	4.0	0	0	2	15	34	85	[授業[教え方等]] 7(説明の明かさ)と8(話はよく聞き取れたか)はいずれも前年同期及び全学科平均と同じ。 9(板書、パワーポイント)と10(配布資料、材料等の効果)はいずれも前年度同期と同じだが、全学科平均より 0.1 ポイント高いか同じ。 それでも、授業の教え方には改善の余地があり、今後の課題として取り組む必要があると考えている。
8	4.1	0	0	1	13	24	98	
9	3.9	0	0	1	25	45	65	
10	4.0	0	0	1	7	47	81	
11	4.1	0	0	0	9	35	92	[環境・設備等] 11(学習環境)は全学科平均と同じだが、前年度同期より、0.1 ポイント下がっている。これはクラスの人数が増えていることとも関係があるのだろうか。 12(参考書等の図書館での整備)は前年度同期より 0.1 ポイント上がっているが、改善の余地があると思う。
12	3.7	0	0	1	31	76	28	

3. 今後の方針

☆シラバスの内容を受講前に確認せず、科目名だけを見て時間割に合わせて履修に臨んでいる学生が依然として多いが、Web 登録に慣れていくにつれて改善されていることは明らかである。今後は新年度の教務オリエンテーションや教員それぞれの授業でもシラバスの受講前確認をさらに促すよう心がけていきたい。

☆学生の授業外での自主的な学習は、アンケートの回答から見て改善されているようだ。それは近年実施されてきたシラバスでの授業準備の指示による効果ではないかと考えているが、先生方にはそれぞれの授業で学生の授業外での自主的な学習をさらに勧めるよう工夫を続けていただきたい。

☆学生の出席状況への評価、教員の教え方、学習環境など、全体的にみて改善された項目が多いが、参考書等の図書館での整備などについては引き続き改善に努める必要があると考えている。

1. 概評

どの項目も、評価は高めで安定している。この状態を維持することに努めていく。

キャリアに直接結び付く初等教育学科の学修内容への意識は高く、地道に積極的な努力を積み重ねている学生が多い。今回は「授業外の自主的な学習」についてのポイントが伸びた。しかし、シラバスの受講前確認や授業内容の理解についてはさらに向上の余地がある。また授業における効果的な機器の使用や、学習環境の整備、図書館資料の充実などについては、引き続き担当教員や図書館等と連携して改善していきたいところである。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	4	41	71	[学生] 「授業前のシラバス確認」「授業に積極的に取り組んだか」「自己の出席状況」については、平均値も分布もほぼ横ばいのまま、高水準を保っている。とくに「出席状況」は全員が「4」以上をつけている。しかし、「シラバス」についてはなお学生の意識を高められる余地があると思われるし、「積極的」についても、魅力ある授業内容の工夫と学生への意識付けを引き続き心がける必要があろう。 「授業外の自主的な学習」については、前回より少しポイントが上がった。授業中に出された課題等を含むため、本来の意味の自主学習の習慣を学生が身につけた証左であるとは言い切れないが、この状態を維持する努力を継続するとともに、さらに学生が学びを深めていけるよう、自主学習の手掛かりとなる情報を授業の中で示していくなどの工夫をすすめたい。
2	4.3	0	0	0	2	24	90	
3	4.6	0	0	0	0	0	116	
4	4.3	0	0	0	6	13	97	
5	4.1	0	0	1	3	28	84	[授業「内容」] シラバスと授業内容の一致、授業内容の理解とも、前回とほぼ同様の良好な評価である。後者については、前回わずかながらあった「2～2.5」の評価がなくなったのは喜ばしいことである。より一層のポイントの向上を目指したいが、授業理解が知識の詰め込みに終わらず、その次の学習課題の発見へとつながるような高次のものとなるよう、授業担当者の今一步の工夫を促したい。
6	4.2	0	0	1	5	27	83	
7	4.2	0	0	1	13	18	84	[授業「教え方等」] このカテゴリの項目も、平均値も分布もほぼ横ばいのまま高水準を保っている。前回存在した「1～2」の評価はなくなったが、授業によるポイントのばらつきはなかなか解消が難しい。可能な範囲で授業担当者の理解と協力を得て、改善していきたい。 また、機器を使用した授業の充実化についても心がけたい。 なおデータには現れてはこないが、学部共通科目（人間社会学概論）は、専門外の科目の基本的な考え方を理解することがまずむずかしく、難解であると感じる学生が多いようである。それぞれの学科の必修科目の場合もあり、内容の工夫には限界があるが、何らかの対応を模索したい。
8	4.2	0	0	0	14	14	88	
9	4.1	0	0	1	14	25	73	
10	4.2	0	0	0	8	28	80	
11	4.1	0	0	1	10	26	79	[環境・設備等] 「学習環境」については、わずかにポイントを下げた。今夏の節電による影響もあるのかもしれないが、定員増の完成年度となったため大人数の授業は増加しており、演習等で特別な設備やスペースを要する授業についての評価も低目である。ソフト面での対応とともに、教室そのものの整備もやはり望まれる。「図書館の参考書」についてはなかなかポイントが伸びないが、少しずつでも引き続き充実を進めていく。
12	3.9	0	0	1	12	53	50	

3. 今後の方針

授業評価については、おおむね良好な状態を維持しており、とくに今回「授業外の学習」についてのポイントがわずかながら上がったことは、学生の着実にして勤勉な努力の姿の顕れと思われる。学科としては今後とも、学生の希望に応じた多様な学習機会を提供していくよう心がける。

学科の特性上、明確な目標のもとに高い職業志向性を持つ学生が多いが、教職・保育職以外の進路を考える学生も増えつつある。こうした学生たちへの対応が、大きな課題である。

カリキュラムについては、現行のものの微調整を行い、学生がよりストレスなく、自分の履修したい科目が履修できるよう改善していきたい。

施設面については、学科定員増による学生数の増加(H23 年度が完成年度)により、前年度同様、若干過密気味の教室が増えてきているので、換気等により可能な限り学生の良好な学習環境を維持していくよう努める。また、図書館との連携による図書資料のさらなる充実も急務である。さらに、より効果的な資料や機器の使用についても、引き続き教員間の積極的な情報交換に努めたい。

学生生活の様々な面でのケアについては、クラスアドバイザー中心に学科教員全員で学生についての情報を共有しながら緻密に行っているが、今後とも、個々の学生に応じたきめ細やかなケアを心がけていく。

1. 概評

全体と学科平均の比較では、残念ながら全ての項目において学科が全体を下回る結果となってしまった。H22 後期の学科平均値と比較すると、問2および問6～問11において、0.1ポイントずつではあるが評価が下がっている。この原因として考えられるのは、震災による授業期間の短縮に伴い授業時間内の理解が追いつかなかったことが考えられる。一方で問4 授業外での学習では特に演習科目を中心に評価が4.5を超えている科目が12科目あり、学科の平均も昨年度後期より0.2ポイント上回っている（昨年度前期比は+0.4）。これも震災対応で課題やレポートが増えたことも一因と考えられるが、それらの科目は他の項目も概ね高い評価が得られていることを考えると、授業外学習を行うことが授業自体に取り組む姿勢にも影響してくるのではないかと考えられる。今後も学生の自主的な学習を促していきたい。

問12 参考図書の整備については昨年度同様評価が低いが、H23 後期の学科平均と比較すると0.1ポイント評価が上がっている。引き続き各授業で図書館利用アドバイスなどを行っていききたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.8	0	0	0	21	105	53	[学生] ※（ ）内の数値は学科昨年度前期比を示す 昨年度後期に比べると、問3 出席状況で0.1(+0.1)ポイント、問4 授業外での学習において0.2(+0.4)ポイント上昇した。一方で問1 シラバスの確認は昨年度と同様(0.0)、問2 授業への積極的な取り組みは-0.1(0.0)ポイントとなっている。これは出席率もよく授業外学習もしているにも関わらず、学生自身が積極的に授業に参加している意識が少ないということである。学生が参加を意識できるような授業運営の工夫が必要である。科目数の分布でも、ほとんどの科目が中間値3以上の評価となっている。問3 出席状況においては約83%の科目が4以上の評価、問4 授業外学習では70%が4以上の評価となっている。今後もこの値以上の数値を保持できるよう、努力していきたい。
2	3.9	0	0	3	6	77	93	
3	4.2	0	0	0	5	25	149	
4	4.0	0	0	2	14	39	124	
5	3.9	0	0	3	7	98	71	[授業[内容]] 問5 授業内容とシラバスの一致、問6 授業内容の理解に関する項目いずれも昨年度後期の学科平均と同じかマイナス、全体平均よりも下回る結果となった。この原因は震災対応で授業運営に変更が生じ、理解が深められなかった可能性が考えられる。ただ昨年度前期学科平均との比較では、問5・問6ともに+0.1となっていることから今後の推移に注意したい。
6	3.8	0	0	5	27	67	80	
7	3.9	0	0	4	17	82	76	[授業[教え方等]] 問7 から問10 については、いずれも昨年度後期の学科平均より下回る結果となった。大学全体の平均は下がっていないことを考えると、学科としての特徴が何かしら影響しているのではないかと考えられる（ただし昨年度前期比では問8 で+0.1、問9 で+0.2）。科目数の分布をみると、昨年度後期は評価3未満の科目は問7 における2科目のみであったが、今期はのべ14科目となっている。昨年度前期も13科目あったことを考えれば、前期の科目について評価が低い傾向があるといえよう。問7～10 で評価3未満の設問が複数ある科目も多く、これらは問6 授業内容の理解についての設問も低めの値である。これは授業内容が理解できないことが、全ての項目に影響していると考えられる。視聴覚機器の有効利用など授業環境への配慮とともに、授業時学生の理解度を確認しながら進められるよう、授業運営の工夫を考えたい。
8	4.0	0	0	4	15	77	83	
9	3.8	0	1	4	21	87	65	
10	3.8	0	0	2	28	93	56	
11	4.0	0	0	0	20	63	96	[環境・設備等] 問11 受講人数と部屋の大きさに関する項目については前回より-0.1ポイント(0.0)となったが、問12 参考図書の整備状況については0.1ポイント評価が上がった。問12 は相変わらず全設問中最も低い値ではあるが、教員による関連図書の推薦や紹介が少しずつ成果となって表れてきていると考えられる。
12	3.6	0	0	3	54	104	18	

3. 今後の方針

今学期は残念ながら全体としてあまり良い評価を得ることができなかった。これは震災の影響が考えられるが、大学全体としては昨年度後期からむしろ評価が上がっていることを考えれば、今回の結果は学科としての傾向と考えざるをえない。ただし、昨年度前期学科平均との比較では、同様かやや良い評価を得ていることから、前期科目において評価が低い傾向があるといえよう。前期科目について授業改善の意識が必要であると考え。特に授業の教え方等についての評価が低かった科目については、授業中間期に小テストを実施するなど学生の理解度を確認し、理解の低い者に対してフォローするような工夫が必要であろう。

また授業外学習については、今後も積極的な取り組みを促していきたい。特に授業外の学習について良い評価を得ている科目が、他の設問でも比較的評価が良いことを考えると、授業外学習が授業理解に対して大きな意味を持っていると考えられる。その意味で、今後も学生が積極的に授業外学習に取り組めるよう、課題・レポートの出題を含めて考えていきたい。

この授業外学習と関連して、図書館への参考図書の整備状況については、引き続き学科として改善できるよう努力していきたい。教員による図書の積極的な推薦、授業中の関連図書の紹介、図書館利用のポイントなど各教員が積極的に臨む姿勢が重要である。

1. 概評

アンケート設問全てについて、概ね前年度と同様の評価となっている。これは栄養士資格取得を目的としている学生の共通の評価であると考えられる。

学科の特性として、資格必修科目が多いため、出席評価が高い。授業内外での取組や学習環境についての評価は平均的である。これに対し、シラバスの確認と授業内容の理解の評価は低い。授業評価については、平均的成績が低い事はないため、自己評価において低値を示したと考えられる。授業内容において説明の明快さについての評価が低い傾向にあったが、これは高学年配当科目における、発展途上の分野の科目内容によると考えられる。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.7	0	0	0	14	39	11	[学生] シラバスの確認は、授業内外での指導により改善している。傾向として、必修科目は低く、各領域の選択科目において高い値を示している。このことから、学生は選択の必要性に応じてシラバスの確認を行っていると考えられる。 出席状況の評価は高い。これは資格科目が多く、出席確認が厳しい強い事が影響していると考えられる。授業内外における学習への取組の評価は平均的である。レポートを含めた授業外での学習の評価が低いのは、レポートや課題が定期的に行われており、特筆に値しないと考えている可能性がある。
2	4.0	0	0	0	6	19	39	
3	4.5	0	0	0	0	1	63	
4	4.0	0	0	0	7	29	28	
5	3.8	0	0	0	7	34	23	[授業[内容]] 全体での授業内容の評価は、低値を示している。授業ごとに概観すると、選択科目で高く、資格必修や基礎科目で低い傾向にある。資格必修科目は、選択性がないため、苦手意識による評価の低下が含まれていると考えられる。
6	3.7	0	0	1	20	19	24	
7	3.8	0	0	6	11	18	29	[授業[教え方等]] 説明の明快さの評価が低値を示した。授業ごとに概観すると、基礎的な科目や資格の基礎科目では比較的高く、応用科目、特に感覚的な項目を数値化するような、あいまいせいの上がる科目で低評価となっていた、これは授業内容そのものから来る要因である。今後可視化の方法などによる改善を検討する。
8	3.9	0	0	5	8	21	30	
9	3.8	0	0	4	13	25	22	
10	3.8	0	0	0	14	24	26	
11	4.0	0	0	4	2	18	40	[環境・設備等] 学習環境や図書館に関しては、特にないが、参考図書については、不足しているとの指摘が一部の科目において上がってきている。
12	3.6	0	0	0	20	33	11	

3. 今後の方針

栄養士養成課程は、カリキュラムを大幅に逸脱する事は不可能であり、資格必修科目が多いため、学生はシラバスの確認を怠った状態で授業を受ける傾向が高い。これに対し、選択科目ではシラバスの確認の評価が高く、シラバスが有効に利用されていると考えられる。なを、シラバスの確認については、授業内外での指導により、全体評価において若干の改善が認められてきている。

授業における出席や授業内での取り組み態度の評価は高い。これに対し、授業外での学習取組が低評価であったが、アンケート内容の変更により、若干の上昇を認めている。しかし、レポートや課題による授業外の学習は、定常的に行われているため、学生は通常の事として評価している可能性があると考ええる。

授業内容の理解度や説明の明快さが低評価であるのは、高学年科目の低学年とは異なった授業展開、特に定説が定まっていなかったり、感覚的なものを数値化する様な授業によるところがあると考えられる。今後はこの様な授業については、視覚化の方法などを含めて検討する必要があると考えられる。

現在学生の基礎力の偏差も問題とありつつあり、1 年生への基礎力テストを来年度から実施し、その結果に基づいて、能力別クラス等での授業運営を検討して、基礎力の強化、専門性のモチベーションを高められるような支援方法も検討している。環境整備などについても関係部署と連絡を取り合いながら、より良い学習環境を整備していきたい。

1. 概評

生活科学科食物健康学専攻は本年度が最終年度である。4年生の選択科目が主であるため、授業への出席状況、授業評価等、授業間での大きな差は無かった。ただし、シラバスの確認については、一部の授業で低評価であった。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.7	0	0	1	5	14	7	[学生] シラバスの確認では学科開講科目に比べ、他学科教員による科目で確認の評価が高評価であった。授業への出席、授業内外での学習状況等については、特に傾向を認めなかった。
2	4.0	0	0	0	1	7	19	
3	4.4	0	0	0	0	1	26	
4	3.9	0	0	1	2	15	9	
5	3.9	0	0	0	1	15	11	[授業[内容]] 授業内容の理解や説明の明快さについては、授業による差が若干認められ、授業内容の高度化による理解度の差が影響を与える可能性が考えられた。
6	3.9	0	0	0	5	10	12	
7	4.0	0	0	1	2	11	13	[授業[教え方等]] 説明の明快さでは授業間による差を認めた。これは、これまで受けた事の無い系統の授業であった事などが影響を与えていると考えられる。
8	4.1	0	0	0	2	10	15	
9	3.9	0	0	0	3	13	11	
10	3.9	0	0	0	3	12	12	
11	4.1	0	0	0	1	3	23	[環境・設備等] 学習設備等については特に傾向を認めなかったが、一部の授業で、参考図書の不足を訴える学生がいた。
12	3.7	0	0	0	8	14	5	

3. 今後の方針

最終年度であるため特になし。

1. 概評

設問共に概ね、前年度と同等な評価がなされている。管理栄養士資格取得を目的にしている学生達の共通の評価である。資格取得の必修科目が多く、出欠席の取り方も厳しいので、授業の出席状況の評価は常に高くなっている。しかし、科目内容が決められているため、シラバスの確認をせずに授業を受講している学生が多い。学内の授業での取り組み方が、良好に対して授業外での学習が例年、低かったが、教員の支援などにより、昨年度より若干、高い評価となっている。年々、学生個々の基礎的な能力などの差も大きくなって来ていると言われているので、個々の能力に合わせたきめ細かい指導ができるように授業の運営方法や時間割の設定についても検討することが重要であると考ええる。

学習環境は、良好と言えるが、参考図書等については、授業外での学習を促すためにも、より一層の充実が望まれる。（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.6	0	0	3	35	49	2	[学生] 例年、シラバスの確認の評価は12設問中、一番低く、授業内容をシラバス上で確認せずに授業を受けている学生が多いと思われる。資格取得必修科目が多いため、出席状況は、例年、高率である。授業外での学習の評価が全体的に低値であるが、昨年度と比較すると評価が上って来ている。そのことから学生自らが能動的な学習態度を持つ事ができるよう支援の方法を教員各自が検討する必要があると考える。
2	4.0	0	0	0	2	25	62	
3	4.5	0	0	0	0	2	87	
4	3.8	0	0	0	14	29	46	
5	3.8	0	0	0	4	68	17	[授業[内容]] シラバスの確認や活用があまりなされていないため、シラバスに沿った内容であるかについては、低い評価となっている。内容の理解度については、学年差や授業形態によっても違う。高い専門的な知識や技術を身につけて、全員、国試合格を目指せるような学生を養成するためには、1年生の基礎力向上のために能力別クラス編成などを行い、実情に合った授業運営を行うことも検討する必要があると考える。
6	3.8	0	1	2	2	36	48	
7	3.8	0	0	3	8	44	34	[授業[教え方等]] 例年通りの評価が見られる。教え方の評価には、受講数と教室の広さ、授業で使用するAV教材などの使い方などにより変動がある。授業内容をより興味を持たせ、理解を深めさせるような教え方を教員各自がさらに検討していくことが必要であると考ええる。
8	3.9	0	0	0	9	45	35	
9	3.8	0	0	0	8	46	35	
10	3.9	0	0	0	4	59	26	
11	4.0	0	0	0	3	24	62	[環境・設備等] 学習環境については、例年と同等の評価であるが、今年度、2年生の在籍数が非常に多いため、学習環境の評価が学年によって違う。受講生数に見合う環境づくりが重要である。 授業・授業以外の学習・卒研ゼミなどで専門書を利用する機会が多いので、専門領域によっては、不十分な点も多いと感じている。今後も専門書等の充実を図るため、教員から図書館にさらに推薦図書を希望していただけるようにはたらきかけていきたい。
12	3.7	0	0	0	6	76	7	

3.今後の方針

栄養士養成施設であるので、決められているカリキュラムを大幅に逸脱することはできないので、学生自身もシラバスを確認することなく、授業に臨んでいることは常に予想されている評価となる。授業に対する取り組み方として出席率が高いことは評価されることである。過去数年に渡り、学内の授業と授業外での学習の取り組み方の評価に差異があったが、数ポイントではあるが、今年度、授業外での学習への評価が高くなってきた。学生の意識の向上や決められているカリキュラムの中でも学生が自主的に学習を行う意欲を高められるような教職員の支援の効果であると思われる。また、基礎力の低下を補うために 1 年生への基礎力テストを来年度から実施し、その結果に基づいて、能力別クラス等での授業運営を検討して、基礎力の強化、専門性へのモチベーションの持続、国家試験に全員合格できるような能力を身につけられるような支援方法も検討している。環境整備などについても関係部署と連絡を取り合いながら、より良い学習環境を整備していきたい。図書館では、学生による選書ツアー等ご計画いただいているが、もう少し、幅広く学生達の図書の希望等が把握できるような機会があれば良いのではないかとと思われるので、その点についても図書館にお願いをしていきたい。

1. 概評

全体として大学平均と同じか上回っており、4を下回っている項目も1のシラバス確認と、12の参考資料の充実のみである。12については毎学期文化創造学科の中で一番低い数値となっているが、だんだんに改善されていることが伺える。シラバスについては、必修科目について未確認の傾向が見られるので、必修であってもシラバスを確認するよう促したい。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.9	0	0	1	5	66	48	[学生] 全体的に大学全体の平均と同じか、あるいは上回っている。シラバスで内容を確認したかどうかについても、多くの学生が確認している。ボストン研修や編入に必修の科目については、シラバスを確認しない傾向が見られる。履修が義務づけられている科目であっても、シラバスを確認するよう促したい。
2	4.1	0	0	0	4	44	72	
3	4.4	0	0	0	0	4	116	
4	4.1	0	0	0	10	33	77	
5	4.1	0	0	1	3	38	78	[授業[内容]] 授業は概ねシラバス通りに行われており、内容も理解できたという評価である。授業内容が理解できたか(5)については、資格科目や、学部との同時開設科目が含まれている。
6	4.0	0	0	1	9	44	66	
7	4.1	0	0	0	8	41	71	[授業[教え方等]] 授業の教え方については、概ね大学全体と同等かそれを上回っている。低い数値については、担当教員がそれぞれ確認し、授業向上に努めていく。
8	4.1	0	0	1	4	31	84	
9	4.0	0	0	3	14	40	62	
10	4.0	0	0	2	7	38	73	
11	4.1	0	0	0	7	31	82	[環境・設備等] 授業環境については特に問題はないことがアンケートより伺える。教室が狭すぎる、広すぎる等については、学科でできるかぎり対応するようにしている。図書についても、昨年度よりも改善されているようで、よい数値となった。さらに資料の充実につとめたい。
12	3.7	0	0	1	22	68	29	

3. 今後の方針

概ね評価は 4 以上と良い評価となった。今後も、教員それぞれが評価を真摯に受け止め、評価を参考に授業改善を行い、より良い授業運営を行えるよう、創意工夫に努めていく。シラバス確認については、今後も登録前にシラバスをよく確認するよう、教務ガイダンスや、基礎ゼミなどを利用して、学生に促していくつもりである。参考図書については、担当教員に推薦図書を積極的に図書館に依頼するようお願いし、また学科でも図書をそろえるなどして、さらに改善に努める。参考図書の充実により、授業外での学習も期待できると考えられる。

1. 概評

全体の評価は平均 3.97 で、おおむね良好と言えよう。どの項目の評価も、前回は下回るものはなかった。逆に、項目の 1～3、5, 6, 8, 9 は 0.1～0.2 増、殊に項目 4 は 0.5 増であった。授業の教え方等を問う項目の 7～10 は平均 4.0 と、かなり高い評価を得ているが、これに安心することなく、なお一層の講義の充実を図っていききたい。自主学習ができているか否かを問う項目 4 の結果は、前回は 0.5 ポイント上回り、他の項目並みの評価になった。ともあれ、自主性は、大学の勉学における大切なファクターであるので、今後とも改善が図られねばならない。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	3	103	44	[学生] [学生] に関して特筆すべきは、授業外の自主的な学習の評価が、前回の 3.4 を大きく上回って、3.9 であったということである。震災対応の授業により多くの科目で課題が出されたことが、数値を引き上げたのではないかと推察する。ともあれ、学生の自主性を更に増すために教員がなすべきことは、講義内容の充実（面白くてく刺激的な授業内容）であることに変わりはない。出席状況は相変わらず高評価（4.5）。
2	3.9	0	0	0	4	95	51	
3	4.5	0	0	0	0	2	148	
4	3.9	0	0	2	14	49	85	
5	4.0	0	0	1	3	47	99	[授業[内容]] 震災対応の授業が行われたにもかかわらず、両項目とも 0.1 ポイント前回は上回り、おおむね良好。
6	3.9	1	0	1	10	74	64	
7	4.0	1	0	1	8	67	73	[授業[教え方等]] [授業(教え方等)] に対する評価は、数値の分布を見ると、どの項目も、4 以上のポイントが一番多く、前回と同様良好であると言える。この好評価から、学生が講義の仕方や講義内容にある程度満足していることが窺える。これに満足することなく、更なる講義の改良、工夫が望まれる。
8	4.1	0	1	0	7	59	83	
9	3.9	1	0	3	16	59	71	
10	4.0	1	0	1	6	63	79	
11	3.9	0	0	2	22	70	56	[環境・設備等] 項目 12 の評価 3.6 は、全体の項目の中で最も低い。引き続き、図書館の参考図書の充実を常勤教員、非常勤教員の別なく、訴えていきたい。
12	3.6	0	0	1	46	91	12	

3. 今後の方針

- 他の学科との意思疎通を更に密にし、カリキュラムの改良・充実を目指して、短期、長期の両面から、カリキュラム編成に取り組んでいきたい。
- Web登録が導入されて以来、シラバスが科目選択する際のほぼ唯一の手引きとなっているので、なお一層シラバスの整備、充実を図っていきたい。

1. 概評

昨年度比マイナスの設問がひとつもなかった。三年めの報告ではじめてのことである。その意味では、慶賀すべきなのであろう。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.7	0	1	3	50	92	57	[学生] すべての設問で昨年度前期・後期をうわまわる。三名の専任教員、三名の非常勤教員に感想をもとめたところ、教員の実感とはことなる結果といわざるをえない。AO、推薦入試の学生がおおい学科ほど、理解度はおちている。学生の自己評価に疑問を感じる。報告者の実感としても、設問 4 はマユツバである。
2	4.0	0	0	0	2	77	124	
3	4.4	0	0	0	0	9	194	
4	4.0	0	0	0	5	68	130	
5	4.0	0	0	0	9	89	105	[授業[内容]] 設問 5 は昨年後期比+0.2、設問 6 は+0.1、いずれの設問も改善している。シラバスが定着した証左か？ 評価にはもうすこし時間を要する。
6	3.9	0	0	0	19	84	100	
7	4.0	0	0	2	14	57	130	[授業[教え方等]] 設問 7、9、10 とともに+0.1、FD の成果だろう。
8	4.1	0	0	1	6	50	146	
9	3.9	0	0	3	15	88	97	
10	4.0	0	0	1	14	71	117	
11	4.2	0	0	2	1	36	164	[環境・設備等] 新入学生にかぎれば、ひとクラス人数は 30 をこえる科目が多く、決して「環境がいい」とはいえないが、比較の対象がないためとおもわれる。
12	3.6	0	0	2	55	118	27	

3. 今後の方針

評価を下げた設問がひとつもないのだから、いままでどおり教育するようにする。懸案である少人数教育がいまだ充分ではなく、語学の講義にもかかわらず、40をこえるクラスがいくつかあった。来年度はひとつもないよう、事前にクラスをふやして対応する。

1. 概評

（毎回同じ言葉を並べることになるが、）12項目がそれぞれ異なる視点のものであるため、単純平均に大きな意味がないことを承知で、敢えて時間的な変化を見るために算出すると、総合平均値は2009年度前期：4.1、後期：4.2弱、2010年度前期：4.1、後期：4.1強で、2011年度前期（今期）が4.3弱となった。全く異なるカリキュラムや教師陣にでもしない限り、極端な数字の変化はあり得ない。ここ3年、微増減はありながらも4を超える結果は安堵できる。「善い教師」を育てたいとする建学以来の精神と、目的意識の強い履修学生との合体による成果である。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.1	0	0	0	1	11	28	〔学生〕 前年度に比べ、「授業外での自主的な学習」のスコアが向上した。アンケート上の注意として課題レポート作成のための研究調査も含むことを説明したこともあるので、数字と実態とが直ちに一致とは限らないが、傾向として好転していることは認められる。 出席状況は、従来同様大変良く、すべてが4以上であった。本学の制度上の特色でもあるが、「授業で学ぶ」姿勢は評価して良い。より積極性を求めて指導を考えたい。 シラバスは、改善を加え、学生に「事前学習の内容」を指示・示唆することとしたために、その効果が窺える。授業の進展に合わせて、柔軟に手を加えることは当然だが、ジャイロスコープの機能は必要であり、教師もそれを踏まえてシラバスを提供している。
2	4.2	0	0	0	0	13	27	
3	4.7	0	0	0	0	0	40	
4	4.2	0	0	0	1	4	35	
5	4.2	0	0	0	1	8	31	〔授業〔内容〕〕 項目5に関しては上述と重なり合う。内容が予め正しく把握されて、そのための授業準備をして臨み、授業後に振り返りと補いをするというスパイラルな循環が円滑に行われることを期待し、それぞれの科目の特性を生かしつつ取り組んでいる。概ね、それがうまく運んでいるものと分析できる。（低スコアの科目については、下で触れる。）
6	4.2	0	1	0	0	9	30	
7	4.3	1	0	0	2	2	35	〔授業〔教え方等〕〕 このカテゴリーは、過去の結果と比較しても3.5を下回るものが極めて少なく、「教師の授業力」への評価は良好であると判断できる。「説明の明快さ」「配布資料や教材」は、高校以下の学校であれ大学であれ、「授業を創る・授業を実践する」基本であるので、一部低いスコアのものについては、改善努力をする。 全体評としては以上なのだが、残念ながら極端に評価の低い結果が出ている。7～10の4項目に2.5以下の科目が一つずつ示されているが、これは「同一科目（同一教師）」である。当該科目の学生自己評価は対照的に高い。意欲や関心が低いわけではない。学生の求めるものと教師が望み・期待するものと乖離や齟齬が生じているものと考えられる。個別に対応することによる解決を図らなければならない。
8	4.4	0	1	0	0	4	35	
9	4.3	0	1	0	0	6	33	
10	4.3	0	1	0	2	5	32	
11	4.3	0	0	0	0	10	30	〔環境・設備等〕 毎回のよう4を切っていた「図書館の充実」が、辛うじて4点台に乗った。しかし、引き続き検討し、改善を図ることが必要である。教育学や教職関係の、比較的新しい文献の充実と合わせて文献探索・利用の方法を、より積極的に指導しなければならない。「本が少ない」ということだけではないようである。
12	4.0	0	0	0	4	8	28	

3. 今後の方針

概評にも記したように、「概ね良好」ではあるが、これに安住することなく、このアンケートも一つの手掛かりとして、足りない部分の補強や再構築、あるいは新規開発に努めてゆく。

教職課程の履修者は、免許法改正に伴って、減少傾向にはあるが、極端な落ち込みは見られない。学年が進むにつれて辞退者も出るが、「ほぼ 100 人」規模を維持している。教職課程カリキュラムがハードになっている中で、「それでも履修をする」学生に、十分に応え得る授業を実現していく。後期に「授業公開ウィーク」を設けているのも、そうしたための相互研修のためである。